

「ブラジル日系移民100周年記念 モニュメント制作事業」 彫刻家 絹谷幸太氏による 記念彫刻の制作



総重量約100トン、サイズは約16メートル四方にもなるという巨大な彫刻モニュメント（イメージ模型）

彫刻モニュメントが設置されるサンパウロ市のカルモ公園

助成団体 Kinutani's touch

平成20年(2008年)は、最初のブラジル移民船「笠戸丸」がサントス港に到着してから、一世紀を迎える年となる。日本人の移民100周年という節目を記念し、両国のさらなる相互理解と文化交流のシンボルとして、彫刻家・絹谷幸太氏が手がける大規模な彫刻モニュメント制作事業への助成を行った。

■ モニュメント制作・展示スケジュール

- 平成19年(2007年)春
絹谷幸太氏、茨城県笠間市にてモニュメント制作
- 平成19年(2007年)夏
ブラジル渡航。セアラ州からサンパウロ市へRed Dragon(赤色花崗岩)の運搬手配、サンパウロ市アトリエに設置
- 平成19年(2007年)初秋
日本に帰国後、制作再開
- 平成19年(2007年)12月
日本での制作部分完了。横浜港からブラジル・サントス港へモニュメントの海路運搬開始
- 平成20年(2008年)1月
ブラジル渡航。現地にて制作再開
- 平成20年(2008年)5月
モニュメント完成。設置場所のカルモ公園における造園作業後、設置
- 平成20年(2008年)6月初・中旬
モニュメント開幕式
- 平成20年(2008年)9月～
日本国内での展覧会開催、出版事業など

日本・ブラジルの交流のシンボルとなる“石の彫刻群”

現在、世界最大の日系人社会を有するブラジル。その第一歩を記したのは、明治41年(1908年)に夢を抱いてブラジルに降り立った日本人たちだった。以来、幾多の苦難を乗り越えながら日系ブラジル人社会を築いてきた人々と、日本人の移住を受け入れてくれたブラジルの人々。絹谷氏がモニュメント制作に取り組むきっかけとなったのは、サンパウロ大学留学当時に感じた、両国の人々に対する強い敬意と謝意であった。

氏が日本とブラジルを行き来しながら制作を行っているモニュ

メントは、ブラジル産の紅い花崗岩「Red Dragon」の周囲に、日本産の白花崗岩「稲田みかげ石」を配置した“石の彫刻群”だ。約16メートル四方、総重量約100トンにもなる巨大な石の作品は、平成20年(2008年)5月に完成予定。過去・現在・未来の交流の歴史を紡ぐ、朽ちることのないシンボルとしての役割を果たすことが期待されている。



彫刻家・絹谷 幸太氏

モニュメントを通じた交流が、“次の100年”の原動力に

このプロジェクトは、サンパウロ市の全面協力を得るとともに、日本の外務省からも「日本ブラジル(日伯)交流年事業」として認定を受けている。完成したモニュメントは、多くの子どもたちや市民の憩いの場として、また日系人の集いの場として親しまれているサンパウロ市郊外の「カルモ公園」への設置が決定しており、人々が“手で触れることができる”公園施設となる予定だ。

「モニュメント制作期間には、日本とブラジルそれぞれの制作現場で、現地の小中学生を対象とした石磨き作業の体験や、ワーク

ショップの開催等も企画しています。また将来的には、モニュメントを囲んでの野外教室やコンサートの開催、演劇の舞台としての利用等、交流の場として活用することも視野に入れています」とは、絹谷氏の実妹であり、同プロジェクト実行委員を務める絹谷美帆氏。

両国の長く密接な関係と移民の歴史を広め、さらなる相互理解のきっかけになるであろうモニュメント。その存在は、日本とブラジルの“次の100年”にも寄与するに違いない。



(写真上) 削岩機を使って花崗岩の彫刻を行う絹谷氏
(写真下) 茨城県笠間市にある「稲田みかげ石」の採石場

採石したばかりの花崗岩の原石と絹谷氏

日本・ブラジルに夢の大橋を

原田 明夫氏

ブラジル日本移民100周年記念モニュメント
制作プロジェクト実行委員会 発起人
東京女子大学理事長
財団法人 国際民事法センター理事長

彫刻家・絹谷幸太君が派遣留学生としてブラジルを訪れ、この壮大なプロジェクトを企画したことを知り、彼の人柄と才能を学生の頃から知っている一人として、実行委員会の発起人をお引き受けすることにしました。

近年、ブラジルは経済的發展がめざましく、いざれ先進諸国に仲間入りするとみられている国です。アマゾン川流域の大密林地帯を有するその国土は地球環境保全の観点から重要であり、また食料や自然資源の潜在的供給力の面では、

わが国にとっても意味深い国です。この国の人々との交流の歴史を記念し、将来にわたる友好と理解の輪を広げていくことを目的とした本プロジェクトは、極めて意義のあるものだと思います。

幸太君が手がけるモニュメントの見事な完成を期待するとともに、彼を支え、協力してくださった多くの方々の意志が、日本とブラジルとの間に架かる「夢の大橋」になることを願っています。